

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Number of acquired melanocytic nevi in patients with melanoma and control subjects in Japan: Nevus count is a significant risk factor for nonacral melanoma but not for acral melanoma	
	論文の日本語タイトル	日本におけるメラノーマ患者と対照群における後天性色素細胞母斑の数：母斑の数は非肢端メラノーマの有意な危険因子だが、肢端メラノーマの危険因子ではない	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MM-CQ2-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV）	
	Pubmed ID	15097952	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	50	
	号	5	
	ページ	695-700	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2004 May	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Rokuhara S	Dept. of Dermatology, Shinshu University School of Medicine, Japan
	その他著者 1	Saida T	同上
	その他著者 2	Oguchi M	同上
	その他著者 3	Matsumoto K	同上
	その他著者 4	Murase S	Dept. of Medical Informatics, Shinshu University School of Medicine, Japan
	その他著者 5	Oguchi S	Division of Dermatology, Saku Central Hospital, Japan
	その他著者 6		

一次研究の 8 項目	目的	日本人のメラノーマ患者と一般人について、全身の母斑の個数と大きさ、分布を調査し、メラノーマ発生との関係を検討する。	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	大学病院	
	対象者	日本人のメラノーマ患者 82 人（肢端メラノーマ 50 人、非肢端メラノーマ 25 人など）と対照 600 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （1）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （3）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （9）	
	介入（要因曝露）	皮膚科医による全身（外陰部、頭部を除く）の母斑の検索	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	日本人一人当たりの母斑の個数とその年齢による変化	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	母斑の個数をメラノーマ患者と一般人について比較	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	3	メラノーマの病型（部位）と母斑との関係	1.主要 2.副次 3.その他（2）
	主な結果	1) 日本人において母斑は 0 歳から 19 歳にかけて増加し、20~39 歳の年齢層で最多となり（一人当たり 6.7 個）、その後徐々に減少した。 2) 非肢端メラノーマ患者（粘膜メラノーマを除く）は 40~79 歳の年齢層で対照よりも有意に多い母斑を有した。 3) 肢端メラノーマ患者と対照群との間には全身の母斑の数に有意差がなかった。	
	結論	日本人においても母斑の個数は、非肢端メラノーマ発生の危険因子といえる。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ） 日本人における母斑の疫学的実態とメラノーマとの関係についての初めての本格的調査である。症例対照研究の形をとっておりレベルⅣとした。	